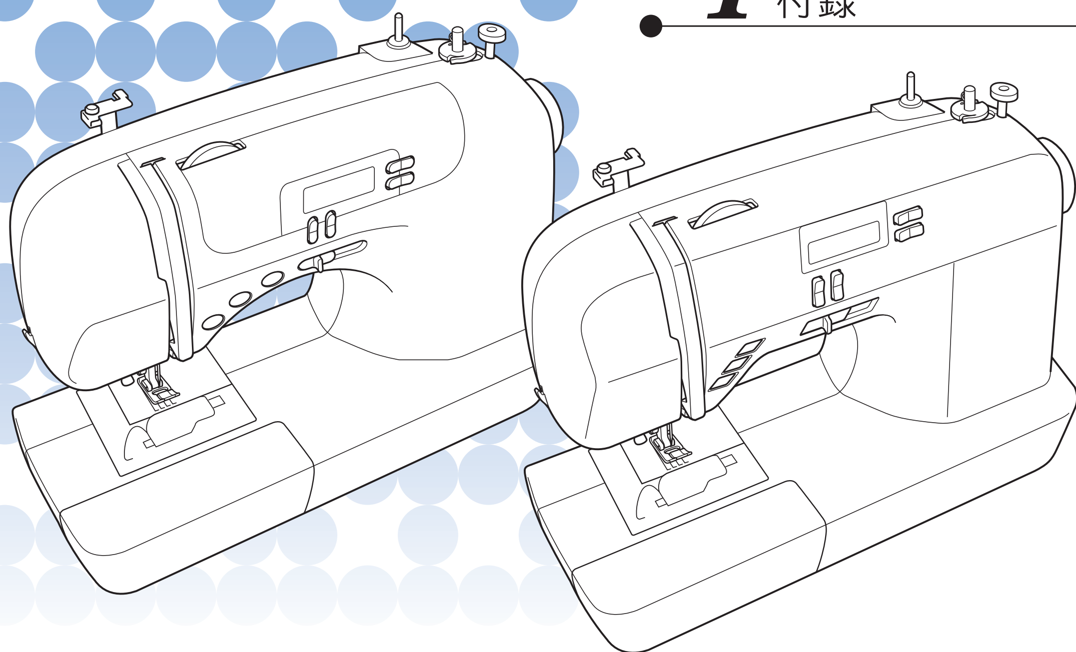
brother



コンピューターミシン

取扱説明書

CPS42／CPS43シリーズ

●ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。

●取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に以降の「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない禁止事項



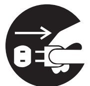
分解してはいけません



水に濡らしてはいけません



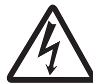
特定しない義務行為



電源プラグを抜いてください



特定しない危険通告



感電の危険があります



火災の危険があります



やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告

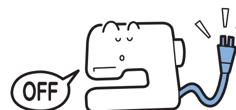


● 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。





● 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき



注意



● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



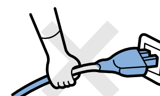


● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



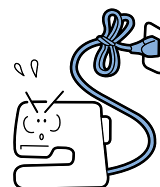


● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。





● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



注意

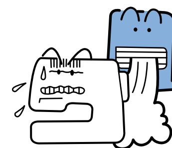


● 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



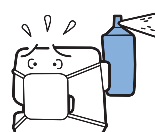


● 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ～ 40 ℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。





● スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。





● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。





● ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。





● ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。





● 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



注 意

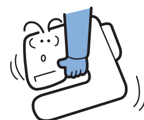


● ミシン本体の重さは約 4.5kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



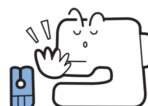


● ミシン本体は、必ず取手部を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。



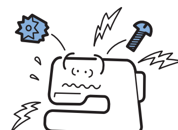


● ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



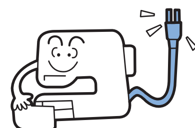


● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご依頼ください。



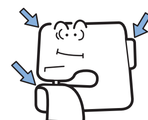


● 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。





● ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。





● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。





● 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。





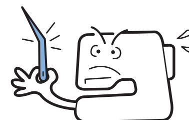
● 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



注 意



● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。





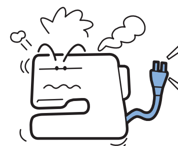
● 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。





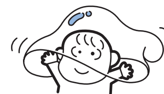


● 万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。





● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。
かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。





● お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。



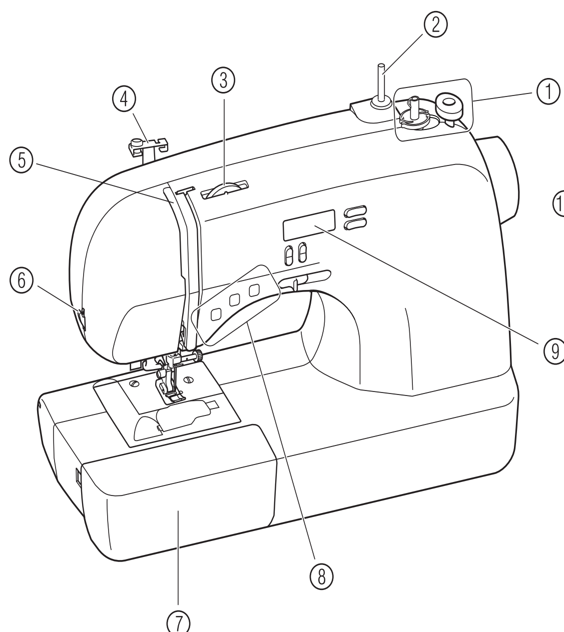
お願い

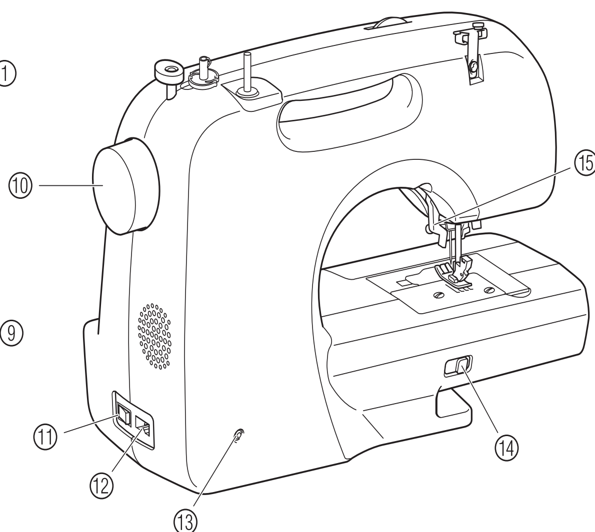
● このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
● 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
● 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
● 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
● 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

もくじ

各部の名前とはたらき

主要部





① **下糸巻き装置（→ P.16）**
下糸をボビンに巻くときに使用します。

② **糸たて棒（→ P.16、20）**
糸こまを差し込みます。

③ **糸調子ダイヤル（→ P.35）**
上糸調子を調節します。

④ **糸案内（→ P.16、20）**
下糸をボビンに巻くときや、上糸を通すときに糸をかけます。

⑤ **天びん（→ P.21）**

⑥ **糸切り（→ P.35）**
ここに引っかけて糸を切ります。

⑦ **補助テーブル（→ P.10、24）**
この中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときは、ここを外します。

⑧ **操作スイッチ（→ P.9）**
ミシンをスタートさせたり、針を上げ下げするときに使用します。

⑨ **操作パネル（→ P.10）**
模様を選択したり、各種の設定をするときに使用します。

⑩ **プーリー**
ぬい目を 1 針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

⑪ **電源スイッチ（→ P.15）**
電源を入れるスイッチです。

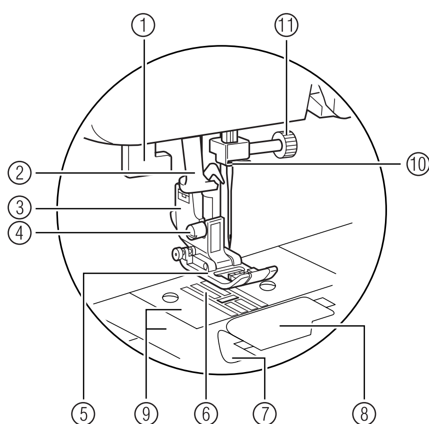
⑫ **電源ジャック（→ P.15）**
電源コードを差し込みます。

⑬ **フットコントローラージャック（→ P.15）**
ここにフットコントローラーのプラグを差し込みます。

⑭ **ドロップレバー（→ P.49）**
送り歯を下げるときに使用します。

⑮ **押えレバー（→ P.20）**
押えを上げ下げします。

針・押え部分



① **ボタン穴かがりレバー**
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

② **糸通しレバー**
針に糸を通すときに使用します。

③ **押えホルダー**
押えを取り付けます。

④ **押えホルダーのネジ**
押えホルダーを固定します。

⑤ **押え**
布地を押さえます。付属の５種類の押えの中からぬい方に合った押えをセットします。

⑥ **送り歯**
ぬう方向に布地を送ります。

⑦ **下糸クイック**
下糸を引き上げずにぬい始められます。

⑧ **針板ふた／かま**
ここを開けて、かまにボビンをセットします。

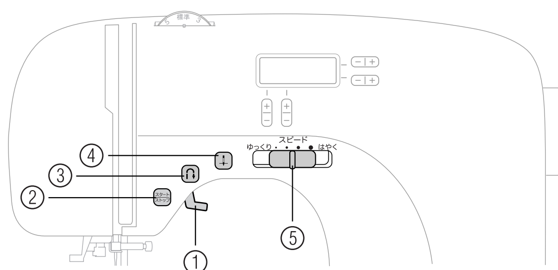
⑨ **針板**
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

⑩ **針棒糸かけ**
上糸をかけます。

⑪ **針の止めネジ**
針を固定します。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作は、操作スイッチで簡単に行えます。



① **押えレバー**
押えを上げ下げします。

② **スタート／ストップスイッチ**
ミシンをスタートまたは停止させます。ぬい始めとスイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」（→ P.34）で説明します。

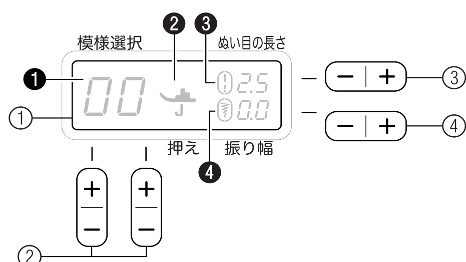
③ **返しぬいスイッチ**
スイッチを押している間、返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合は、逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で３～５針ぬってから止まります。詳細は「止めぬいをする」（→ P.35）で説明します。

④ **針上下スイッチ**
針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、１針ぬえます。

⑤ **スピードコントロールレバー**
左右に動かして速度を調節します。
左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

操作パネル

前面の操作パネルで、模様を選んだり、模様の長さや幅を調整したりできます。



① LCD（液晶画面）
選択した模様（❶）、使用する押え（❷）、ぬい目の長さ（mm）（❸）、ジグザグの振り幅（mm）（❹）が表示されます。

② 模様選択キー
模様選択キーを押して、使用する模様の番号を選択します。詳細は「模様を選ぶ」（→ P.33）で説明します。

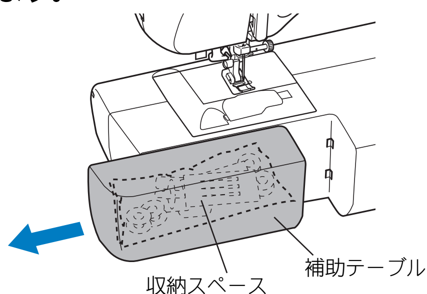
③ ぬい目の長さ調節キー
ぬい目の長さを調節するときに使用します。（ぬい目の長さは、“−”側を押すとこまかくなり、“+”側を押すとあらくなります。）

④ ジグザグの振り幅調節キー
ジグザグの振り幅を調節するときに使用します。（ジグザグの振り幅は、“−”側を押すとせまくなり、“+”側を押すとひろくなります。）

補助テーブル

付属品は、補助テーブルの内側の収納スペースに収納されています。

❶ 補助テーブルを左側へ引いて、取り外します。





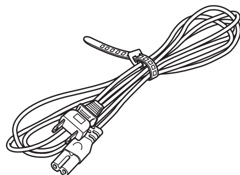
お願い

- 付属品は付属品バッグに入れてから、補助テーブルに収納してください。付属品バッグに入れずに収納すると、付属品が収納スペースから落ちて紛失したり、破損したりすることがあります。

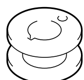
付属品を確認してください

箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

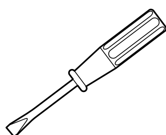
■ **電源コード**
電源ジャックに差し込みます。



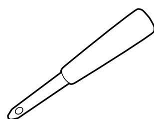
■ **ボビン**
下糸を巻いて使用します。本機純正のものが 4 個付属されています。そのうちの 1 個はかまにセットされています。



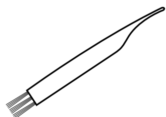
■ **ドライバー**
ミシン針を交換するときなどに使用します。



■ **はとめ穴パンチ**
はとめ穴をあけるときに使用します。



■ **ミシンブラシ**
かまなどの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。

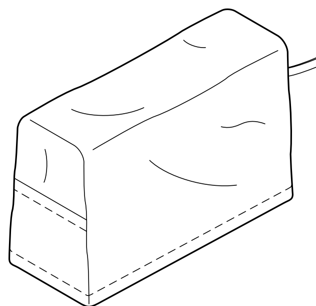


■ **ぬい糸**
実用ぬい用のシャッペスパン #60 白です。

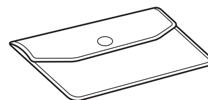


・ 刺しゅうには使用できません。

■ **ミシンソフトカバー**
ミシンを使用しないときは、カバーをかぶせて収納してください。



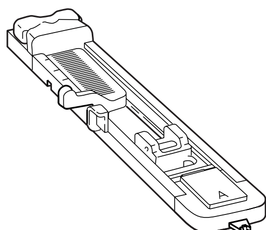
■ **付属品バッグ**
ドライバーや押えなどの小物を収納するバッグです。



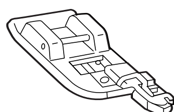
■ 押え（5 種）

ぬい方に合った押えが用意されています。押えにはＡ・Ｇ・Ｉ・Ｊ・Ｒの記号が記されています。
詳細は「押えを交換する」（→ P.29）で説明します。

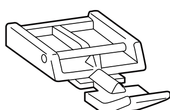
□ ボタン穴かがり押え <A>



□ たち目かがり押え <G>

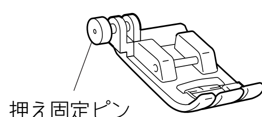


□ 片押え <I>



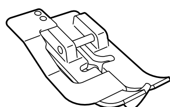
□ ジグザグ押え <J>

押え固定ピンが付いています。



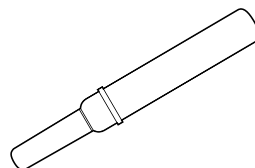
・購入時は、ミシン本体の押えホルダーに取り付けられています。

□ まつりぬい押え <R>



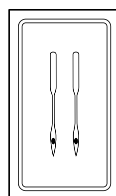
■ リッパー

ぬい目をほどいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。



■ ミシン針

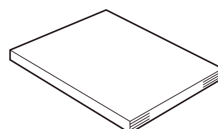
3 種類（計 5 本）の針を付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。
詳細は「針の種類と使い分け」（→ P.26）で説明します。



黄　#11（2 本）
赤　#14（2 本）
緑　#16（1 本）

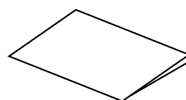
■ 取扱説明書

本書です。大切に保管してください。



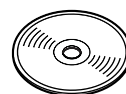
■ 早見表

下糸・上糸のセットが確認できます。



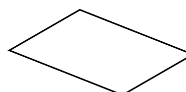
■ 取扱説明 DVD

ミシンの基本的な使い方を DVD で紹介しています。



■ 保証書

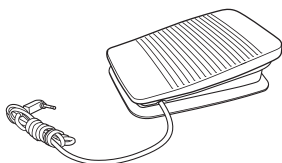
ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。



別売オプション

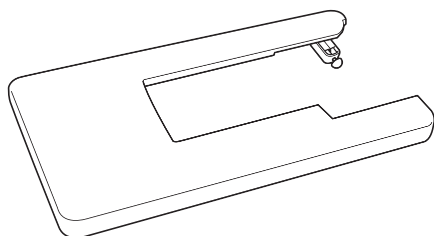
オプション品として、以下の製品を用意しています。

■ **フットコントローラー（モデル名：FC32291）**
ミシンを足で操作するときに使用します。

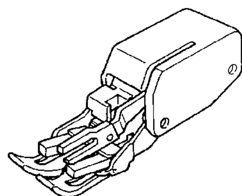


型式：MODEL T
（本機には MODEL T の
ほかに MODEL S も使用
できます。）

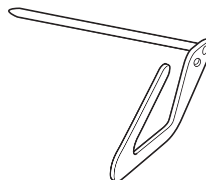
■ **ワイドテーブル（モデル名：WT4）**
大きいものをぬうときに使用します。



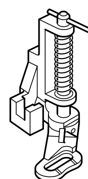
■ **ウォーキングフット（モデル名：F033）**
ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうとき
に使用します。



■ **キルター（モデル名：F016N）**
ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用
の穴に差し込んで使用します。キルティングをす
るときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことが
できます。



■ **キルト押え（モデル名：F005N）**
フリーモーションキルトをするときに使用します。





お知らせ

● オプション品・部品については、お買い上げ
の販売店、または「ミシン 119 番」（フリー
ダイヤル 0120-340-233）にお問い合わせくだ
さい。

1 ぬう前の準備

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

警 告





- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

注 意

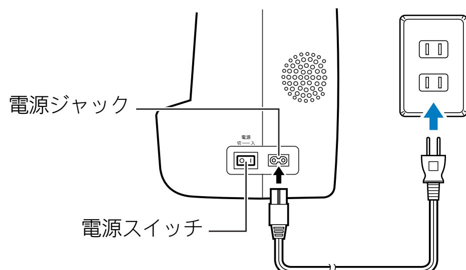




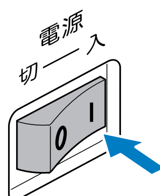
- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

❶ **本体右側の電源ジャックに電源コードを差し込み、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。**



❷ **電源スイッチの"｜"側を押して「入」にします。**



▶ 電源が入り、手もとランプが点灯し液晶に表示されます。

❸ **電源を切るときは、電源スイッチの"○"側を押して「切」にします。**

▶ 電源が切れ、ランプと液晶の表示が消えます。

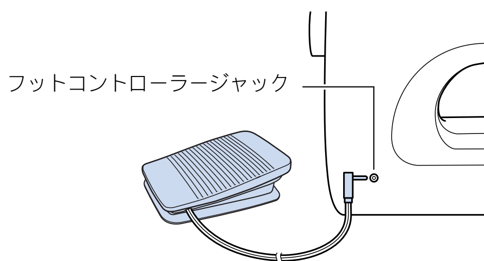


お願い

● 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

別売りのフットコントローラーを使う

本体背面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



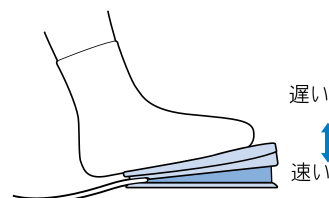
注意



● フットコントローラーを接続するときは、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。

● このミシンには以下のモデルのフットコントローラーが使用できます。その他のモデルまたは他社のフットコントローラーは使用しないで下さい。
MODEL S
MODEL T

フットコントローラーを浅く踏んでいるときは、ミシンはゆっくりと動きます。深く踏み込むほど、ミシンのぬい速度は速くなります。踏み込みをやめるとミシンは止まります。



注意





● フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。

● フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。

● 長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。



お知らせ

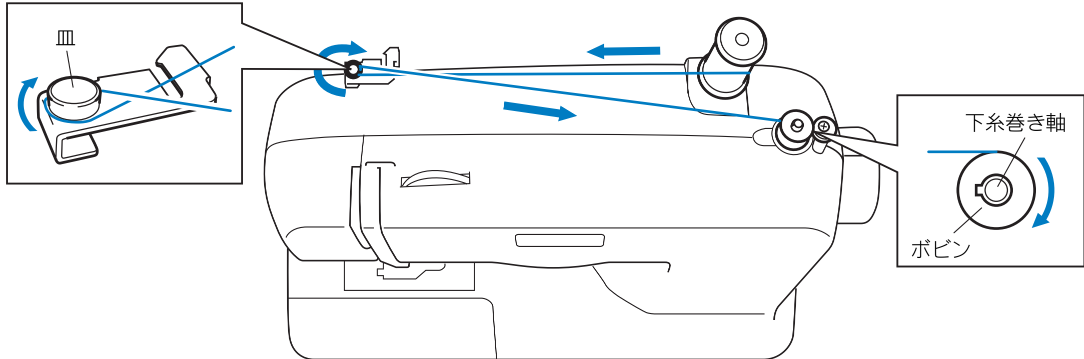
● フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。

● スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーを踏み込んだときの最高速度になります。

上糸と下糸の準備

下糸を巻く

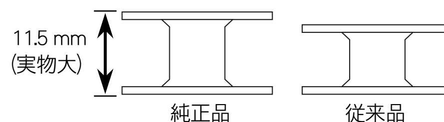
下糸用の糸をボビンに巻きます。



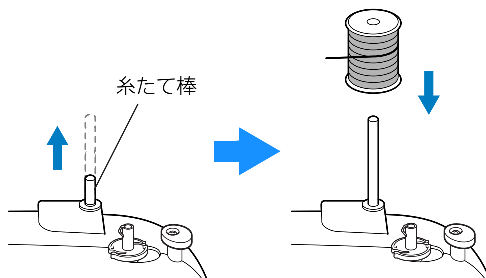


注 意

- 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。



❶ **糸たて棒を最後まで引き出し、下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。**

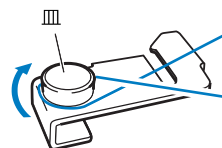




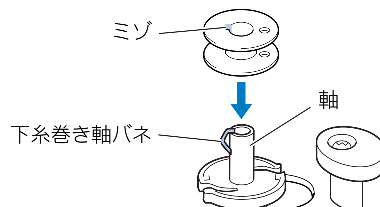
注 意

- 糸こまが正しく差し込まれていないと、糸たて棒に糸がからむことがあります。

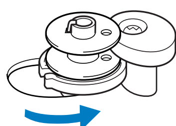
❷ **糸を皿にかけます。**



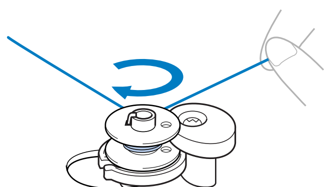
❸ **ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。**



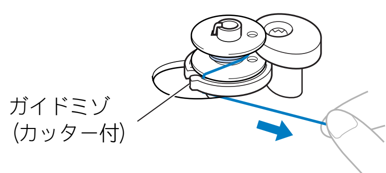
❹ **軸にセットしたボビンをカチッと音がするまで右側に押します。**



❺ **皿にかけた糸を左手で持ち、糸の先端を右手で持ち、ボビンに時計回りに５～６回巻き付けます。**



❻ **糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引いて糸を切ります。**

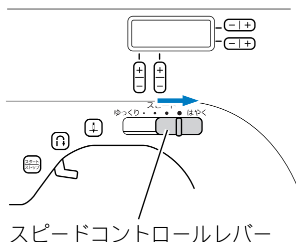


▶ 糸が適切な長さで切れます。

注 意

- 必ずこの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと糸がうまく巻けません。また、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

❼ **スピードコントロールレバーを右（はやく）に動かします。**



❽ **電源を入れます。**

❾ **（スタート／ストップスイッチ）を１回押します。**

▶ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。

❿ **ボビンの回転がゆっくりになったら、（スタート／ストップスイッチ）を押します。**

⓫ **糸を切り、軸を左に戻し、ボビンを軸から外します。**

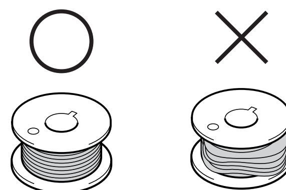
⓬ **スピードコントロールレバーをもとの位置に戻します。**

お知らせ

- 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。
- 下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません（縫製できません）。

注 意

- 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。

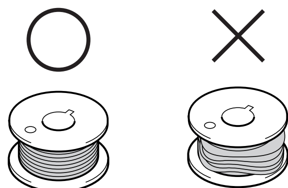


下糸をセットする

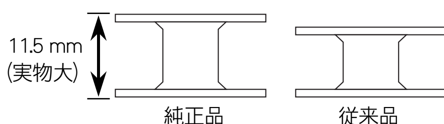
下糸を巻いたボビンをミシンにセットします。

⚠ 注 意

● 下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



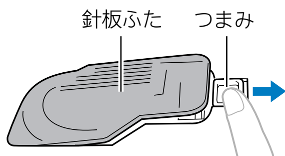
● 付属のボビンは本機純正品です。厚みの違う従来品を使用すると、ミシンが正しく動作しません。必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。



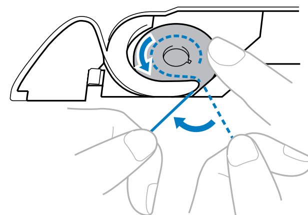
● 下糸のセットは、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

❶ （針上下スイッチ）を押して針を上に上げ、押えレバーを上げます。

❷ 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かし、針板ふたを取り外します。



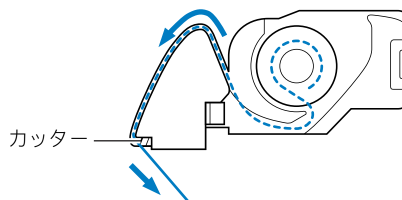
❸ 糸が左巻きになるようにしてボビンをかまに入れ、ミゾに沿って糸を通したあと、糸の端を手前に引いて糸を切ります。



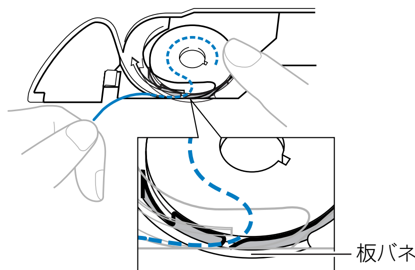
・ 必ず付属品、または別売りの純正ボビンを使用してください。

⚠ 注 意

● ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

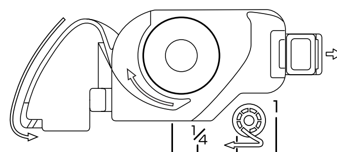


・ 内かまの板バネの間に、確実に糸が入っていることを確認してください。入っていない場合は、もう一度糸をかけ直してください。



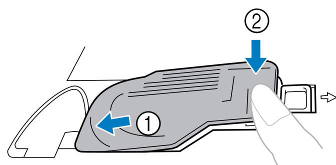
お知らせ

● ボビンをセットする方向が、針板に刻印されています。そちらもあわせて見てください。



❹ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから（①）、右側を上から押します（②）。

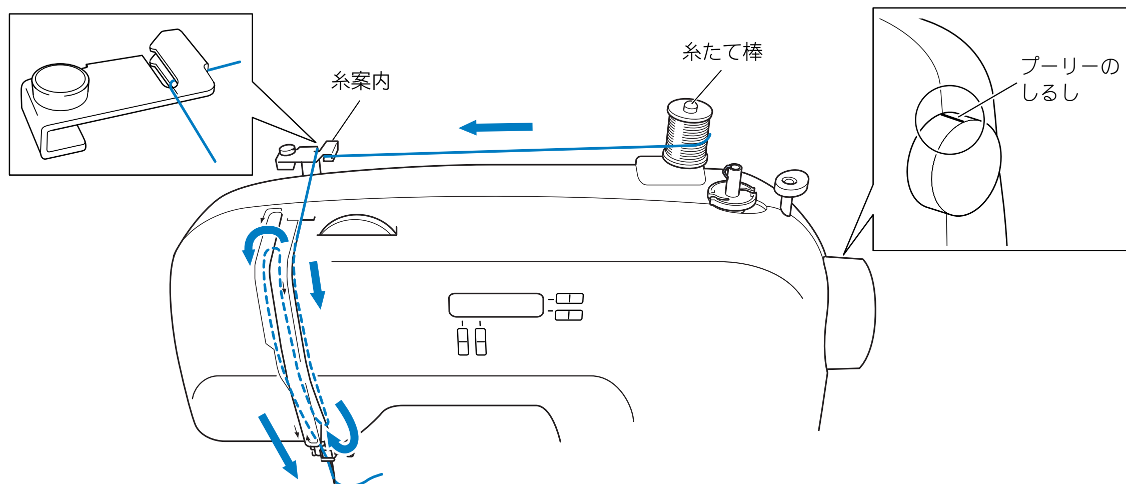


 **お知らせ**

- 下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、上糸をセットしてから「下糸を引き出してからぬうとき」（→ P.23）を参照してください。

上糸を通す

上糸用の糸をセットし、針に糸を通します。



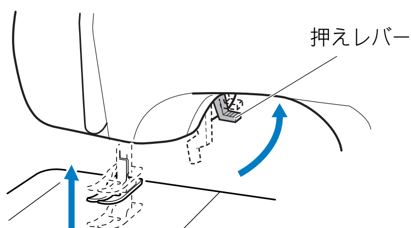


注 意

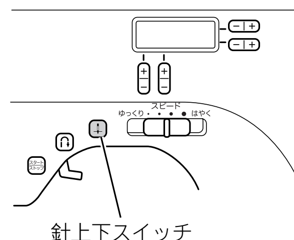
● 上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

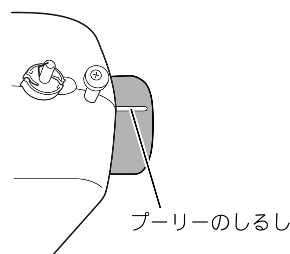
❶ **電源を入れます。**

❷ **押えレバーを上げて、押えを上げます。**



❸ **(針上下スイッチ)を1回または2回押して、針を上に上げます。**





・針が正しく上に上がっていない場合、上糸を通すことができません。プーリーのしるしが上図のように上にきている状態が、正しい位置です。この位置にきていないときは、必ず針上下スイッチで針を上に上げてプーリーのしるしが真上にくるようにしてから、以降の操作をしてください。

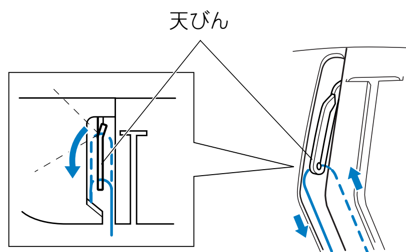
❹ 糸たて棒を最後まで引き出し、上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

注 意

● 糸こまが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。

❺ 前ページの図に示されているように、上糸をかけます。

❻ 天びんの右側から左側へ糸を通し、天びんに糸をかけます。



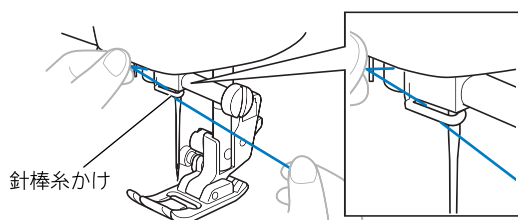


お願い

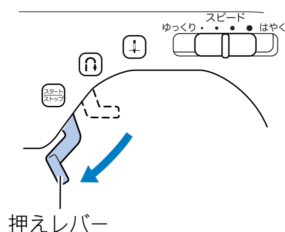
● 針が下がっているときは、天びんに糸をかけることはできません。上糸を通す前に、針上下スイッチで針を上げておいてください。

❼ 針棒糸かけに糸を通します。

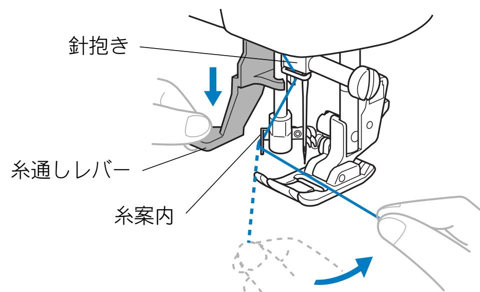
左手で糸を保持し、右手で糸かけを行うと糸かけがしやすくなります。



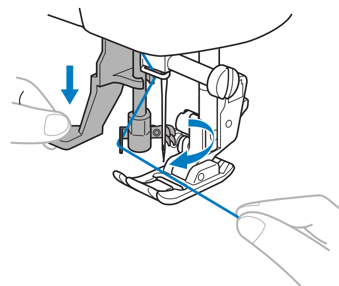
❽ 押えレバーを下げます。



❾ 糸通しレバーを下げた状態で、糸案内に糸をひっかけます。

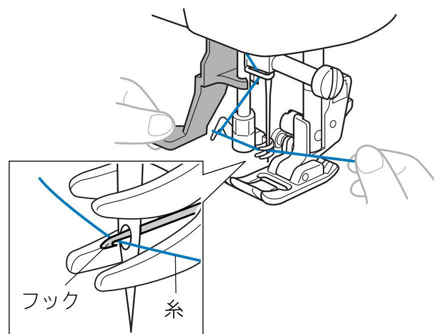


❿ 糸通しレバーをいっぱいまで下げます。

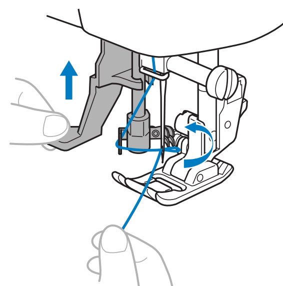


▶ 糸通しの先端部分が手前に回転し、フックが針穴に通ります。

⓫ 下の図のように、糸をフックに引っかけます。

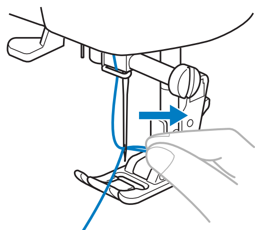


⓬ 糸を軽く持ったまま、糸通しレバーを元に戻します。

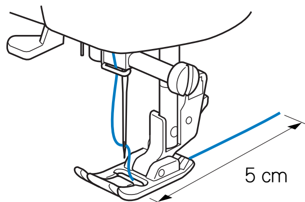


▶ 糸がフックに引っ張られ、針穴に通ります。

⓭ 押えレバーを上げ、針に通った糸の端を引き出します。



⓮ 糸の端を押えの間に通して後ろ側に 5 cm ほど引き出します。



注 意



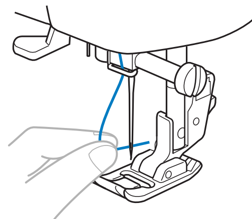
- 糸通し装置は、11～16番の家庭用ミシン針（HA × 1）を使うときに使用できます。また、メタリック糸などの特殊な糸を使用する場合、糸通し装置は使用できません。
- 針と糸は適切な組み合わせで使用してください。針と糸の適切な組み合わせは「針の種類と使い分け」(→ P.26) を参照してください。
- 糸通し装置が使用できない場合は、以降の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。

■ **手で針に糸を通すとき**

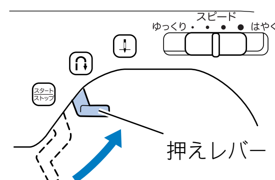
糸通し装置が使用できない場合は、以下の手順で針に糸を通します。

❶ 「上糸を通す」の❶～❽にしたがって針棒糸かけまで糸を通し、押えレバーを下げます。

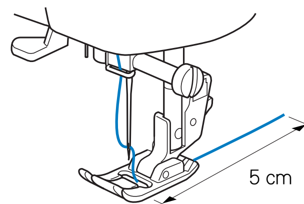
❷ 針穴の手前から向こう側に、手で糸を通します。



❸ 押えレバーを上げます。



❹ 糸の端を押えの間に通して後ろ側に 5 cm ほど引き出します。

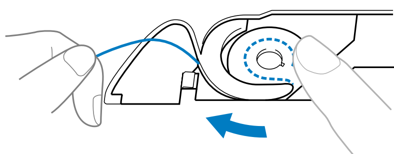


下糸を引き出してからぬうとき

ギャザーをぬうときなどは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

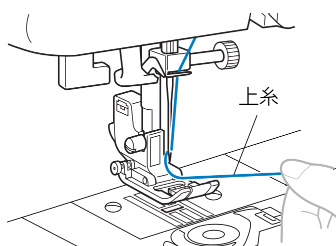
❶ 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

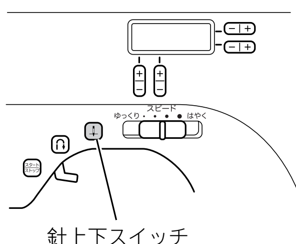


・ 針板ふたは取り外したままにしておいてください。

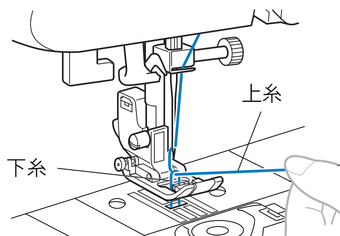
❷ 上糸の端を軽く持ちます。



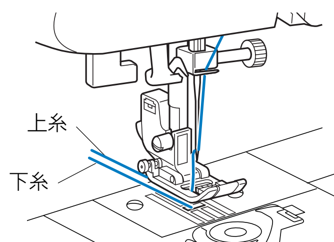
❸ 針が上がっている状態で、(針上下スイッチ）を 2 回押します。



❹ 上糸をゆっくりと上に引き、下糸の糸端を引き出します。



❺ 下糸を 10～15 cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。



❻ 針板ふたをもとに戻します。

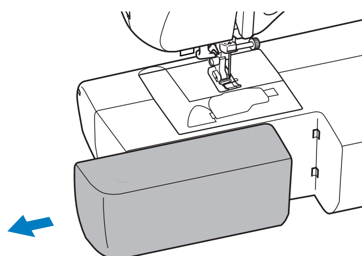
筒ものや大きいものをぬうとき

筒ものや大きいものをぬうときは、補助テーブルを外します。

筒ものをぬうとき

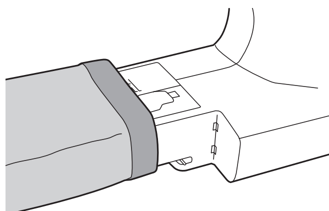
そでロやズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フリーアームにすると便利です。

1 補助テーブルを左に引きます。



▶ 補助テーブルが外れてフリーアームの状態になります。

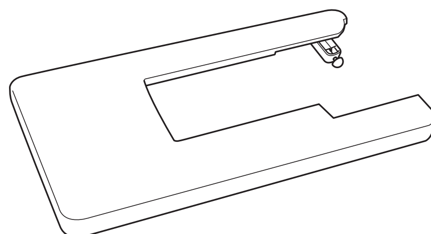
2 ぬうところをアーム部分に通してからぬいます。



3 フリーアームを使い終わったら、補助テーブルをもとにもどします。

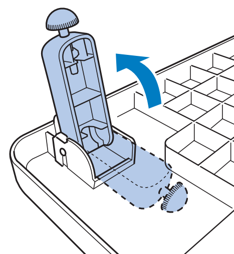
大きいものをぬうとき

大きいものをぬうときは、別売りのワイドテーブルを使用すると作業がしやすくなります。

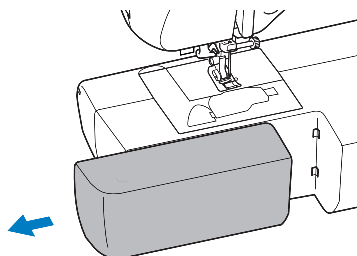


1 ワイドテーブル裏面の脚を立てます。

3 本の脚を「カチッ」と音がするまで引き上げます。



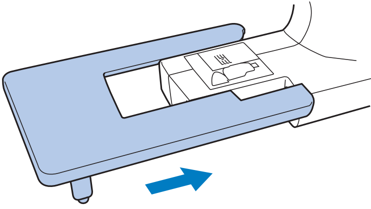
2 補助テーブルを左に引きます。



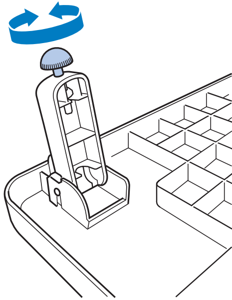
▶ 補助テーブルが外れてフリーアームの状態になります。

❸ ワイドテーブルを取り付けます。

水平にして、ゆっくりと奥まではめます。



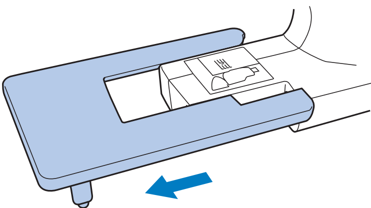
❹ 脚の下についているゴム足を回して高さを調節します。



> **⚠ 注 意**
>
> - ワイドテーブルを取り付けたままミシンを移動しないでください。破損やケガの原因となります。
> - ワイドテーブルをアイロン台等、他の目的で使用しないでください。破損やケガの原因となります。

❺ 使い終わったら、ワイドテーブルをゆっくりと外します。

ワイドテーブルをゆっくりと左に引きます。



❻ 補助テーブルをもとにもどします。

針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと非常に危険です。よく読んで、必ず守ってください。
仕上がり良くぬい上げるためには、ブラザー純正のミシン針（HA × 1）を推奨します。

注 意




- **針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。その他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。**
- **曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。**

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸 種類	ミシン糸 太さ	針の種類
普通地	ブロード	綿糸	60～80	11～14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバジン	絹糸	50～80	
薄地	ローン	綿糸	60～80	9～11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50～80	
厚地	デニム	綿糸	30～50	14～16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツィード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60	ゴールデン針 11～14
	トリコット			
ほつれやすい布地		綿糸	50～80	9～14
		合繊糸		
		絹糸		
ステッチ糸の場合		合繊糸	30	14～16
		絹糸		

■ **糸と針の数字**
糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。

■ **ゴールデン針**
伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。

■ **ナイロン透明糸**
布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用してください。

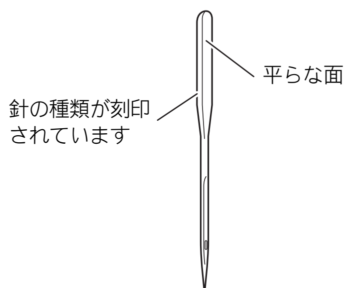
注 意



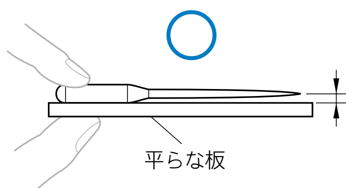
- **布地と糸と針の組み合わせは、左記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に厚い布地（デニム等）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

正しい針の見分け方

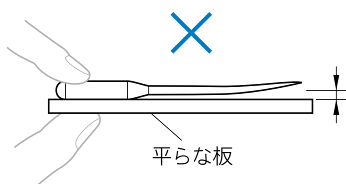
針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。



■ **良い針**



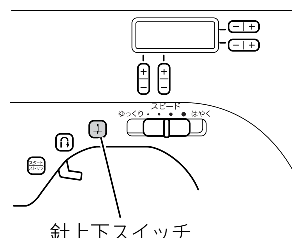
■ **悪い針**
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



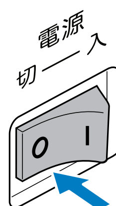
針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認した良い針と、付属のドライバーを用意してください。

❶ (針上下スイッチ)を1回または2回押し、針を上に上げます。



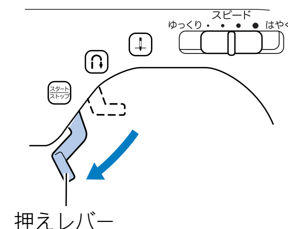
❷ 電源を切ります。



⚠ 注 意

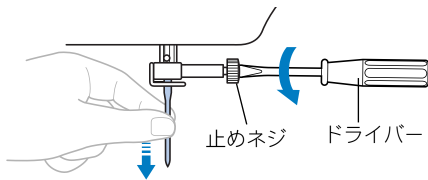
● 針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

❸ 押えレバーを下げます。

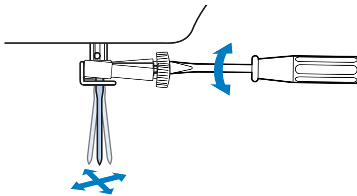


❹ 針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。

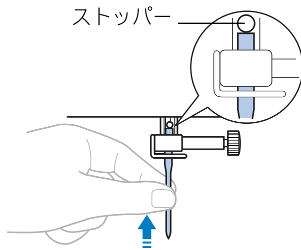
左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回します。



・ 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

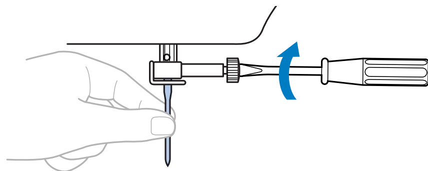


❺ 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



❻ 針を左手で押さえたまま止めネジをしめます。

ドライバーを奥側に回します。



注 意

● 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換するには

押えに関する注意

押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

注 意

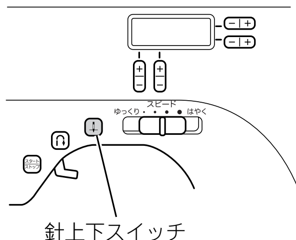


- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず本機純正の押えを使用してください。その他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。

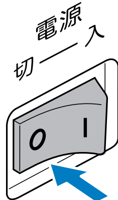
押えを交換する

押えの取り外し方と取り付け方を説明します。

❶ (針上下スイッチ)を１回または２回押し、針を上に上げます。



❷ 電源を切ります。

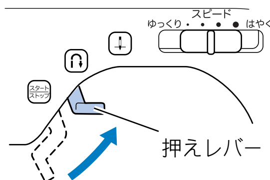


注 意

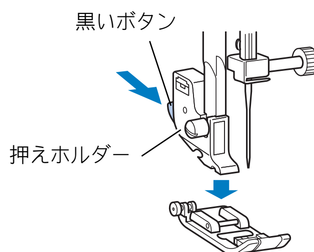


- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

❸ 押えレバーを上げます。

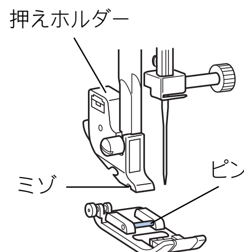


❹ 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



❺ 取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。

押えに記されている押え記号（J、A など）が読める向きに置きます。

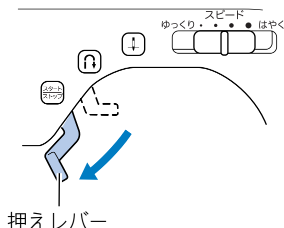




お知らせ

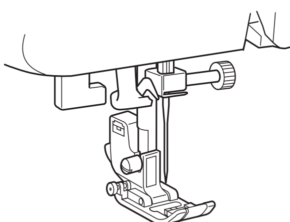
- 各模様で使用する押えの種類は、LCD（液晶画面）に表示されます。模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→ P.33）を参照してください。

❻ 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



▶ 押えが取り付けられます。

❼ 押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。



押えホルダーを外す

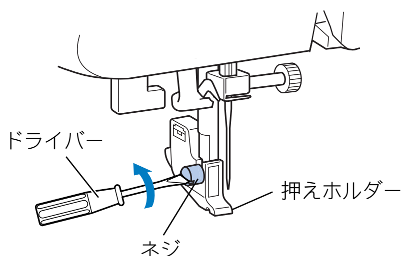
お手入れをするときや別売のウォーキングフットを取り付けるときは、押えホルダーを外します。付属のドライバーを用意します。

❶ 押えを外します。

・「押えを交換する」（→ P.29）を参照してください。

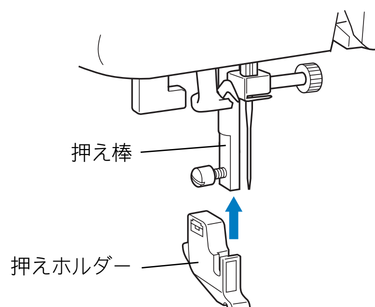
❷ 押えホルダーのネジをゆるめ、押えホルダーを外します。

ドライバーを奥側に回します。



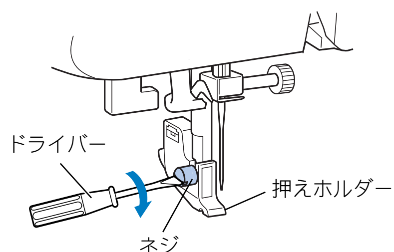
■ 押えホルダーを取り付けるとき

❶ 押えホルダーを押え棒に合わせます。



❷ 押えホルダーを右手で押さえながらネジをしめます。

左手でドライバーを手前に回します。



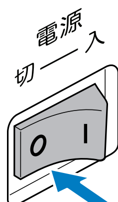


- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

針停止位置を変更するには

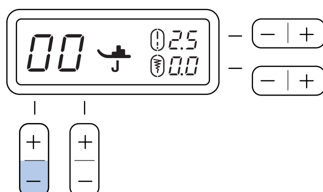
通常は、針が布地に刺さった状態でミシンが止まるように設定されていますが、針が上がった状態でミシンが止まるように設定を変更することもできます。

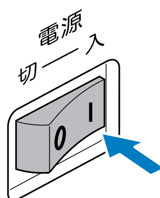
❶ **電源を切ります。**



❷ **左側の ± (模様選択キー) の "−" 側を押しながら、ミシンの電源を入れます。**

電源が入ったら、± (模様選択キー) の "−" 側から指を離します。





▶ 針の停止位置が上に変更されます。


お知らせ

- もう一度同じ操作をすると、針の停止位置は下に戻ります。

2 ぬい方の基本

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

注意





- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
- 押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

ミシンかけの手順

ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

1　電源を入れる	ミシンの電源を入れます。 「電源を入れる」（→ P.15）を参照してください。



2　模様を選ぶ	ぬう箇所に合わせて模様を選びます。 「模様を選ぶ」（→ P.33）で説明します。



3　押えを取り付ける	模様に合った押えを取り付けます。（押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。） 「押えを交換する」（→ P.29）を参照してください。



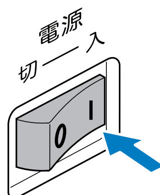
4　スタート	布をセットし、ミシンをスタートさせます。ぬい終わったら糸を切ります。 「ミシンをスタートさせる」（→ P.34）を参照してください。

模様を選ぶ

操作パネルを使って、各種の模様を選択します。

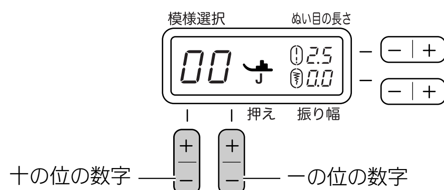
電源を入れた直後は、00 が選択されています。

❶ **電源を入れます。**



❷ **(模様選択キー)を押します。選択した模様の番号が表示されます。**

の[+]、または[−]を押すと、数字が 1 ずつ変化します。右側の を押すと一の位の数字が、左側の を押すと十の位の数字が変更されます。



▶ 模様が選択されます。

❸ **押えを取り付けます。**



お知らせ

● 模様番号の右側にある の下側に、使用する押えの種類がアルファベット(J、A など)で表示されます。



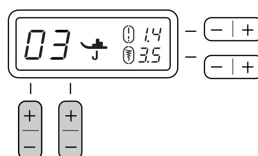
❹ **必要に応じて、振り幅とぬい目の長さを調節します。**

・ 調節のしかたは以降の「[例] 模様 03 を選択する場合」を参照してください。

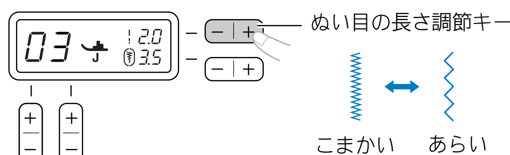
■ [例] 模様 03 を選択する場合

❶ **模様選択キーを押し、「03」模様を選択します。**

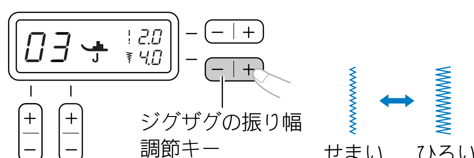
右側の キーで「3」を、左側の キーで「0」を選択します。



❷ **(ぬい目の長さ調節キー)の [+]、または [−] を押して、ぬい目の長さを調整します。**



❸ **(ジグザグの振り幅調節キー)の [+]、または [−] を押して、模様の振り幅を調整します。**





お知らせ

● ぬい目の長さ、または振り幅を標準値から変更すると、LCD 内の 、または の が消えます。ぬい目の長さ、または振り幅を標準値に戻すと、LCD 内の 、または が再び で囲われます。

● 振り幅を調整できない模様を選択した場合は、LCD 内の の右側に "−−" が表示されます。



注 意



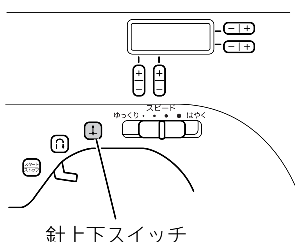
● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

● ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

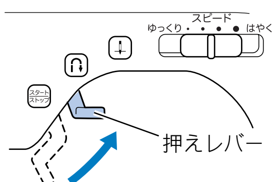
2

ミシンをスタートさせる

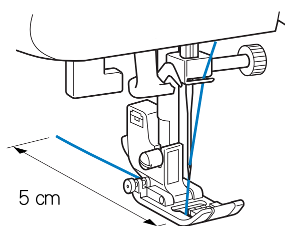
❶ (針上下スイッチ)を１回または２回押し、針を上に上げます。



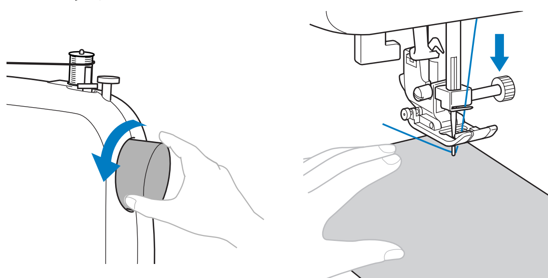
❷ 押えレバーを上げます。



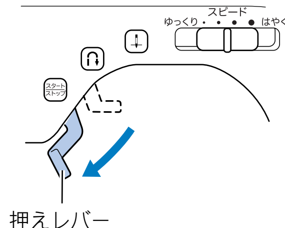
❸ 押えの下に布地を置き、上糸を押えの下に通して後ろ側に5 cmほど引き出します。



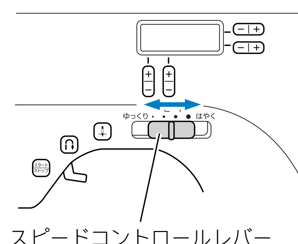
❹ 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。



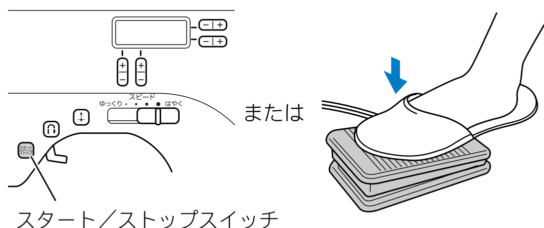
❺ 押えレバーを下げます。



❻ スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。



❼ (スタート／ストップスイッチ）を１回押します。（別売りのフットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。）



▶ ミシンがスタートします。

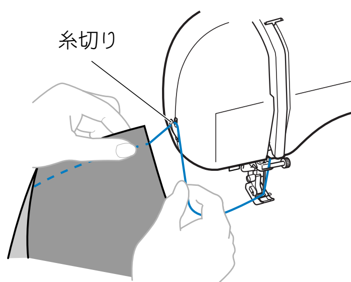
❽ ぬい終わりまで進んだら、もう一度 (スタート／ストップスイッチ）を押します。（フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーを踏むのをやめます。）

▶ ミシンが止まります。

❾ (針上下スイッチ)を１回または２回押し、針を上に上げます。

❿ 押えレバーを上げます。

⑪ **布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。**

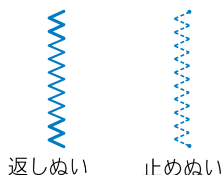


お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、(スタート／ストップスイッチ)は使用できません。
- ミシンを止めると、針は下がった状態になります。ミシンを止めたときに針が上になるように設定を変更することもできます。「針停止位置を変更するには」(→ P.31) を参照してください。

■ 止めぬいをする

直線・ジグザグ以外の模様でぬっていた場合に(返しぬいスイッチ) を押すと、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で３～５針重ねてぬいます。



お知らせ

- 返しぬい／止めぬいのどちらが設定されているかは、「模様設定一覧」(→ P.53) を参照してください。

糸調子を調節する

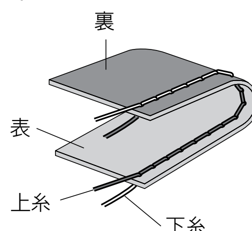
ぬい目の仕上がりは、糸調子によって左右されます。布や糸を変えたときは、糸調子の調節を行ってください。

お知らせ

- 本ぬいをする前に、布の端などで試しぬいをすることをお勧めします。

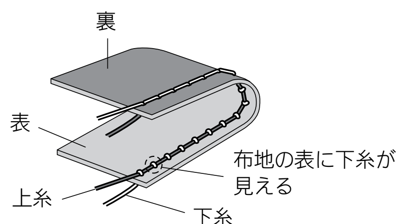
■ 正しい糸調子

縫製をきれいに仕上げるために、糸調子は大切なポイントです。糸調子が強すぎたり、弱すぎたりすると、ぬい目が弱かったり、布地にしわがよったりします。



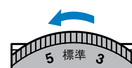
■ 上糸が強いとき

上糸と下糸の重なりが、布地の表にできます。



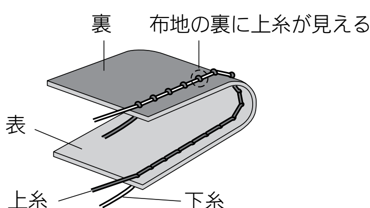
解決方法

糸調子ダイヤルを数字が小さくなる方向へ回し、糸調子を弱くします。



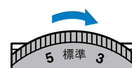
■ 上糸が弱いとき

上糸と下糸の重なりが、布地の裏にできます。



解決方法

糸調子ダイヤルを数字が大きくなる方向へ回し、糸調子を強くします。



上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ミシンかけをするときの参考にしてください。

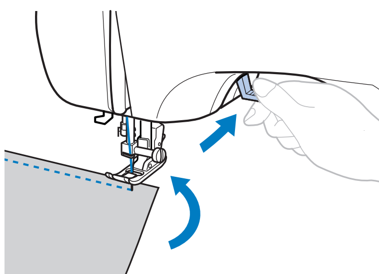
試しぬいをする

本製品は、模様に合わせて適切な模様の幅と長さが設定されるようになっています。
しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。
試しぬいは、実際の布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅・長さを確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによっても仕上がりは異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

ぬう方向を変える

❶ **角までぬったら、ミシンを止めます。**
このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、(針上下スイッチ) を押します。

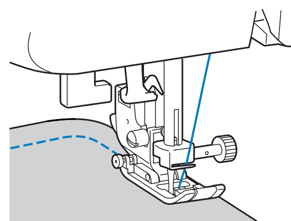
❷ **押えレバーを上げ、布を持って回します。**
針位置を基点に回転させせます。



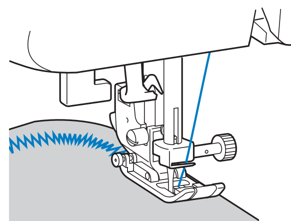
❸ **押えレバーを下げ、続きをぬいます。**

カーブをぬう

途中でミシンを止めながら、少しずつ向きを変えてぬいます。

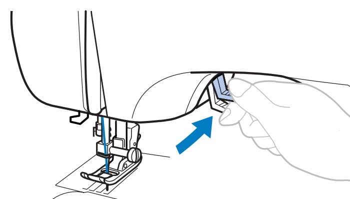


ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。



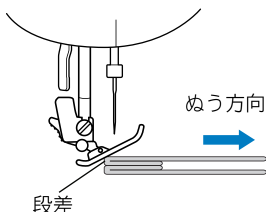
厚い布地をぬう

■ **押えの下に布地が入らないとき**
押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



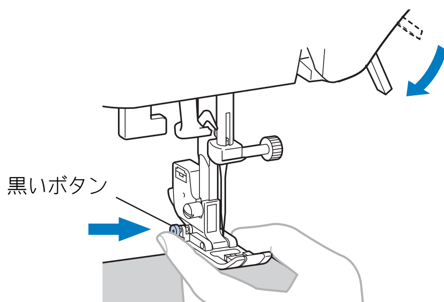
■ **ぬい始めに段差があって布地を送ることができないとき**

ジグザグ押え <J> には、押えを水平にする機能が付いています。

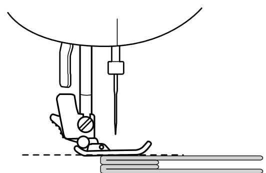


❶ **ぬい始めに布地に段差があって送ることができない場合は、押えレバーをいったん上げます。**

❷ **ジグザグ押え〈J〉の左側の黒いボタン（押え固定ピン）を押したまま、押えレバーを下げます。**



❸ **押えが水平になり、布地が送られるようになります。**



・ ぬい進めると、押えはもとに戻ります。

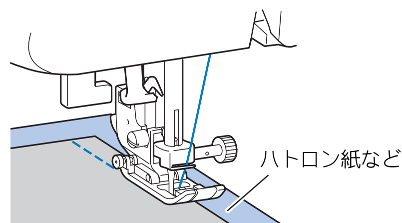
⚠ 注 意



● 6 mm 以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

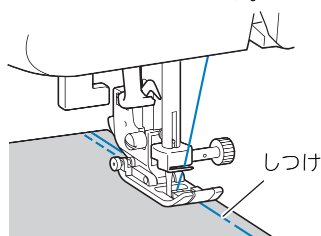
薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。
その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。



伸びる布地をぬう

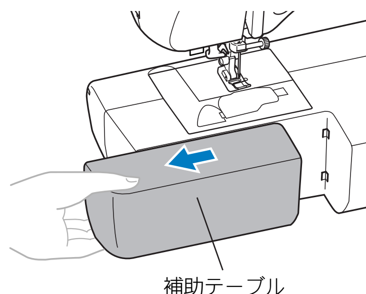
あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。
また、ニット用の糸を使用したり伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。



フリーアームにする

筒ものやぬいづらいところをぬうときに、フリーアームにすると便利です。

❶ **補助テーブルを左側へ引いて、取り外します。**



3 いろいろなぬい方

ぬいしろを始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりは、次の 5 模様から選択します。

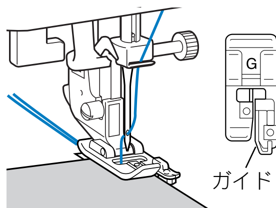
名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
ジグザグ	03	J	通常のほつれ止め、アップリケのぬいつけ	3.5	0.0 － 7.0	1.4	0.0 － 4.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
3 点ジグザグ	09	J	厚地・伸びる布地のほつれ止め、ゴムひもつけ	5.0	1.5 － 7.0	1.0	0.2 － 4.0	×	止めぬい
たち目かがり	04	G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5 － 5.0	2.0	1.0 － 4.0	×	止めぬい
	05	G	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5 － 5.0	2.5	1.0 － 4.0	×	止めぬい
	06	J	伸びる布地のほつれ止め	5.0	0.0 － 7.0	2.5	0.5 － 4.0	×	止めぬい

1 たち目かがり押え〈G〉、またはジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

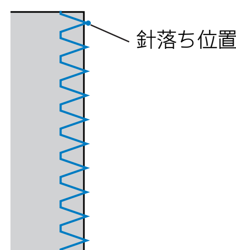
2 模様を選択します。

・「模様を選ぶ」（→ P.33）を参照してください。

3 押えのガイドと布地の端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布地の端を押えのガイドにそわせてぬいます。



注 意



- 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

地ぬいをする

基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の３模様から選択します。

名称		模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
					自動	手動	自動	手動		
直線	左基線	00	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0 − 7.0	2.5	0.2 − 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
直線	中基線	01	J	ファスナーつけ、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	−	−	2.5	0.2 − 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
３重ぬい		10	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき、飾りぬい	0.0	0.0 − 7.0	2.5	1.5 − 4.0	×	止めぬい

3

地ぬい

❶ **ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。**

❷ **ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。**

❸ **模様を選択します。**

・「模様を選ぶ」（→ P.33）を参照してください。

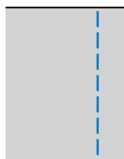
❹ **プーリーを手前に回してぬい始めの位置に針を刺します。**

❺ **ミシンをスタートさせます。**

・「ミシンをスタートさせる」（→ P.34）を参照してください。
・返しぬいをする場合は、「止めぬいをする」（→ P.35）を参照してください。

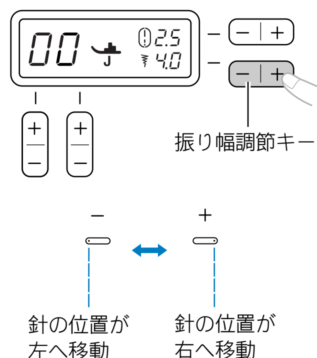
❻ **ぬい終わったら糸を切ります。**

・「ミシンをスタートさせる」（→ P.34）を参照してください。



■ 針位置を変えるとき

模様が直線（左基線）と３重ぬいのときに模様の幅を変更すると、針の位置が調節できます。ジグザグの振り幅調節キーの［－］を押すと針の位置が左へ、［＋］を押すと針の位置が右へ移動します。

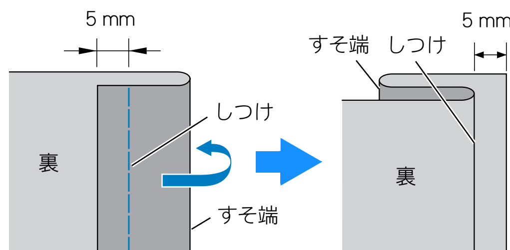


すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の 2 模様から選択します。

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
まつりぬい	07	R	普通地のまつりぬい	0	3 — -3	2.0	1.0 — 3.5	×	止めぬい
	08	R	伸びる布地のまつりぬい						

❶ **ぬいしろをでき上がり線で折り、布端から約 5 mm のところにしつけをします。しつけをしたら、しつけ位置から折り返し、布地の裏を上側にします。**

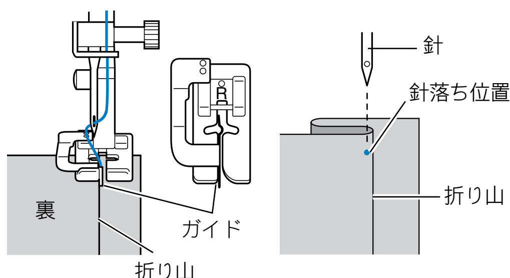


❷ **まつりぬい押え <R> を取り付けます。**

❸ **模様を選択します。**

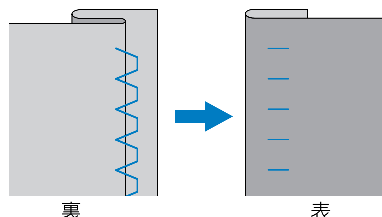
❹ **押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。**

針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



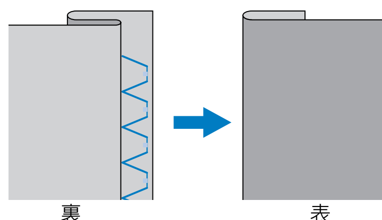
■ **針がかかりすぎているとき**

針が折り山にかかりすぎているときは、ジグザグの振り幅調節キーの [+] を押して、針が折り山にわずかにかかるように振り幅を調節します。



■ **針がかかっていないとき**

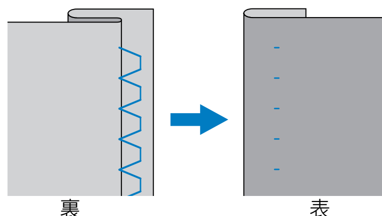
針が折り山にかかっていないときは、ジグザグの振り幅調節キーの [−] を押して、針が折り山にわずかにかかるように振り幅を調節します。



・「模様を選ぶ」（→ P.33）を参照してください。

❺ **折り山に押えのガイドをそわせてぬいます。**

❻ **しつけをほどき、布地を表に返します。**

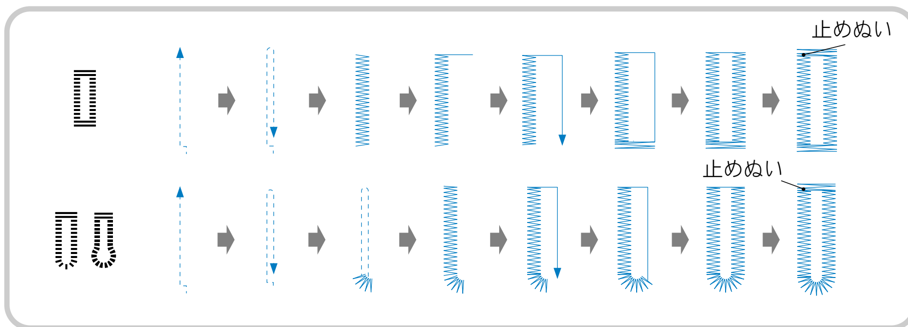


ボタン穴かがりをする

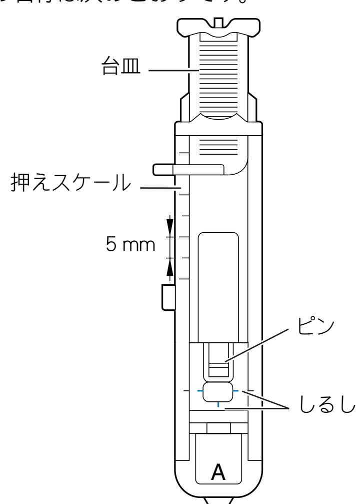
ボタンホールを作ります。次の 3 模様から選択できます。

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
ボタン穴かがり	17	A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0 ― 5.0	0.4	0.2 ― 1.0	×	自動止めぬい
	18	A	薄地・普通地のねむり穴、横穴						
	19	A	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0 ― 7.0	0.5	0.3 ― 1.0	×	自動止めぬい

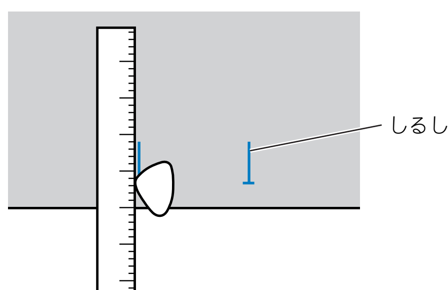
「ボタンの直径＋厚み」が約 28 mm 以下のボタンホールが作れます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬわれます。



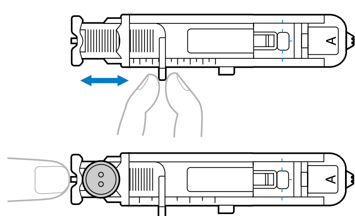
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。



❶ ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。



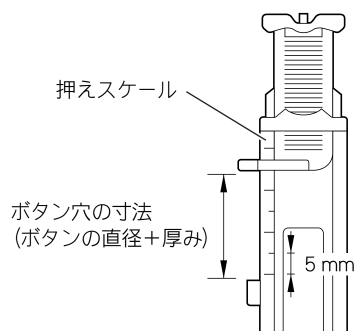
❷ ボタン穴かがり押え〈A〉の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



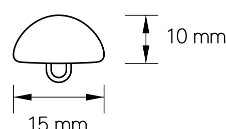
▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

■ **ボタンが台皿にのらないとき**

「ボタンの直径＋厚み」を、押えスケールの目盛り（1 目盛り 5 mm）に合わせて、ボタンホールの大きさを決めます。



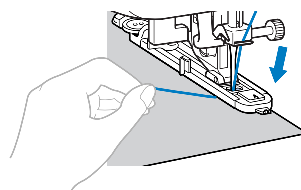
例： 直径 15 mm、厚み 10 mm のボタン
→スケールを 25 mm に合わせる



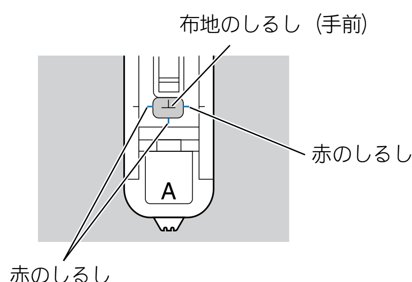
❸ ボタン穴かがり押え〈A〉を取り付けます。

❹ 模様を選択します。

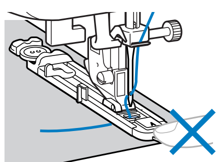
❺ 上糸を押えの穴から押えの下に通します。

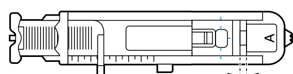


❻ 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。

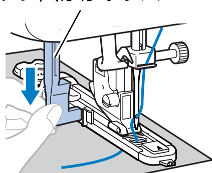


・押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

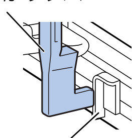




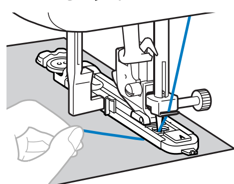
❼ ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



❽ 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。





お知らせ

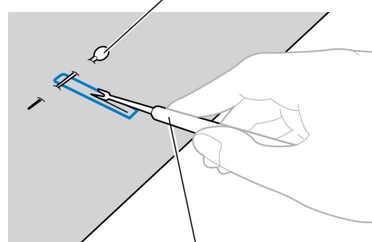
● 厚地の場合など布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

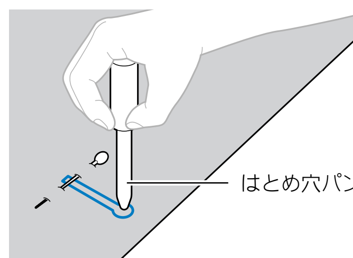
❾ 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

❿ ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

⓫ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺してからリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



・はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください。



注 意



● リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。



お知らせ

● ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

ファスナーをつける

ファスナーをつけるときは、片押え <I> を使います。押えの位置を、針の右または左側に変えることができ、いろいろな種類のファスナーを付けることができます。

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
直線（中基線）	01	I	ファスナーつけ、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	–	–	2.5	0.2 – 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい

ファスナーを付けるときに使用する片押え<I>の各部の名称は次のとおりです。

ピン右側
（ファスナーの左側をぬうときに使用）

ピン左側
（ファスナーの右側をぬうときに使用）

1 **模様 01 を選択します。**

2 **押えレバーを下げ、片押え〈I〉のピンの右側または左側のどちらかを押えホルダーのミゾに合わせて取り付けます。**

ファスナーの右側をぬうときは、ピンの左側を押えホルダーに取り付け、ファスナーの左側をぬうときは、ピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

3 **布地の端を 2 cm 折り、その下にファスナーを置きます。手でプーリーを手前に回して、布地の折り山に針を刺します。**

注 意

● ぬう前に、手でプーリーを手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。01 以外の模様を選択すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。ケガの原因にもなります。

4 **ファスナーのあき止まりの方からぬいます。押えのファスナー側に針が落ちるようにしてぬいます。**

あき止まり

5 **片側をぬい終わったら、押えを左右逆に付け替え、もう一方の側をぬいます。**

注 意

● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。ケガの原因にもなります。

伸びる布地やゴムひもをぬう

伸びる布地をぬったり、ゴムひもをぬい付けます。

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
伸縮ぬい	02	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0 − 3.0	2.5	1.0 − 4.0	×	止めぬい
3 点ジグザグ	09	J	厚地・伸びる布地のほつれ止め、ゴムひもつけ	5.0	1.5 − 7.0	1.0	0.2 − 4.0	×	止めぬい

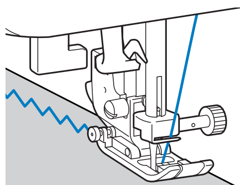
それぞれ以下の点に注意してぬってください。

伸縮ぬい

1 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

2 模様 02 を選択します。

3 布地を伸ばさないようにぬいます。

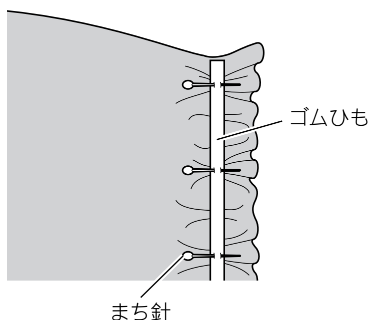


ゴムひもつけ

そでロやウエストなどにゴムひもをぬい付ける場合は、ゴムひもが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムひもを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムひもを止めます。

布地とゴムひもが均等になるように数か所止めます。

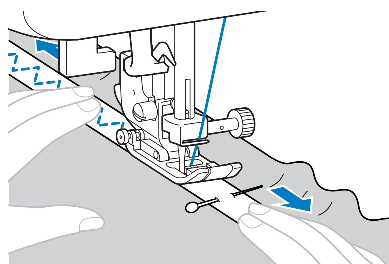


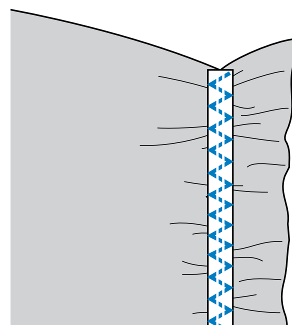
2 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

3 模様 09 を選択します。

4 ゴムひもが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。





注 意



- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。

名称		模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
					自動	手動	自動	手動		
直線	左基線	00	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0 − 7.0	2.5	0.2 − 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
	中基線	01	J	ファスナー付け、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	−	−	2.5	0.2 − 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
ジグザグ		03	J	通常のほつれ止め、アップリケ布のぬいつけ	3.5	0.0 − 7.0	1.4	0.0 − 4.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
アップリケ		11	J	アップリケ布のぬいつけ	3.5	2.5 − 5.0	2.5	1.6 − 4.0	×	止めぬい
手ぬい風直線（キルト用）		13	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0 − 7.0	2.5	1.0 − 4.0	×	止めぬい
アップリケ（キルト用）		14	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5 − 5.0	1.2	1.0 − 4.0	×	止めぬい
		15	J	アップリケ、バインディング						

アップリケ

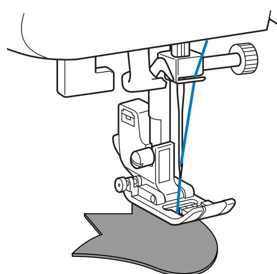
地の布地と違う布地をいろいろな形に切り抜き、飾りとしてぬい付けて、アップリケをつくります。

❶ しつけまたはのりでアップリケ布を布地にとめます。

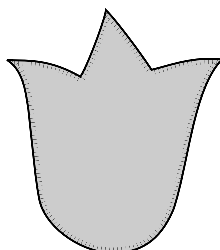
❷ ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

❸ 模様 11 を選択します。

❹ 布端に針が落ちるように、アップリケ布のまわりをぬいます。



❺ ぬい目から外側にはみ出ているアップリケ布を切り、取り除きます。



❻ 必要に応じて、しつけ糸を抜き取ります。



お知らせ

- ぬい始めとぬい終わりに、止めぬいをしてください。

注 意

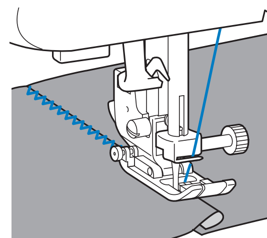


- ぬう際には、針がまち針などに当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。ケガの原因にもなります。

パッチワーク（クレイジーキルト）

❶ 上になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

❷ 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

注 意



- ウォーキングフットを使用するときは 00 、01 または 03 の模様を選択し、他の模様は選択しないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは返しぬいはできません。

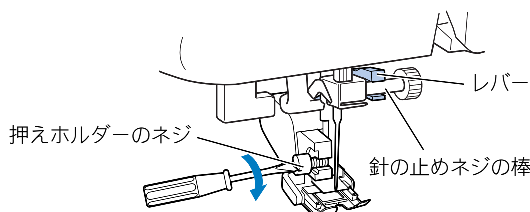
❶ キルティングする布をしつけで止めます。

❷ 押えホルダーを外します。

・「押えホルダーを外す」（→ P.30）を参照してください。

3

❸ **ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で針の止めネジの棒をはさみ、押えレバーを下げてから、押えホルダーのネジでウォーキングフットを押え棒に取り付けます。**



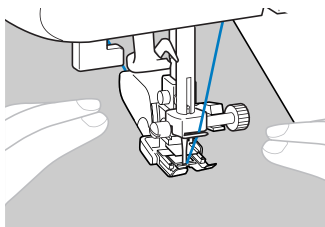
注 意



- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

❹ **00、01、03 のいずれかの模様を選択します。**

❺ **押えの両側に手を置き、布をしっかりと張ってぬいます。**



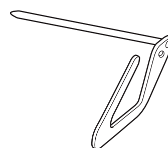


お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、速さを「ゆっくり～中速」にしてぬってください。

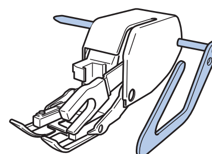
■ **キルターを使用する**

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

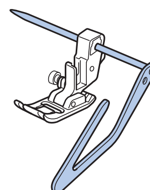


❶ **ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。**

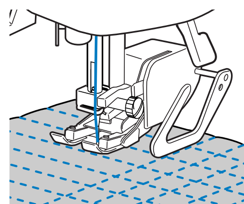
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー

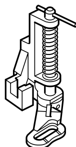


❷ **ぬい終えたぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。**



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときは、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地を自由に動かせるようにします。
フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えを使用します。

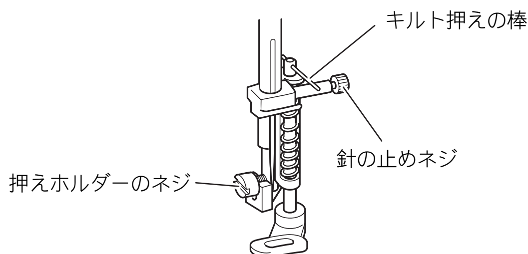


❶ 押えと押えホルダーを外します。

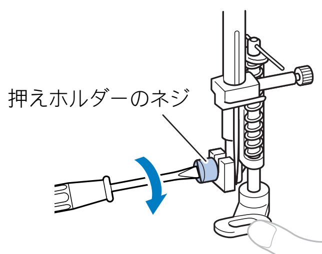
・「押えホルダーを外す」（→ P.30）を参照してください。

❷ キルト押えを押えホルダーのネジにはめます。

キルト押えの棒が、針の止めネジの棒の上になるようにします。



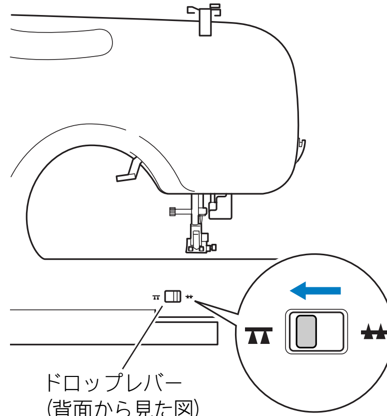
❸ キルト押えを右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

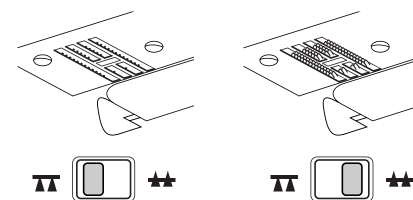


 **注 意**

● ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

❹ 本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（ ）にします。



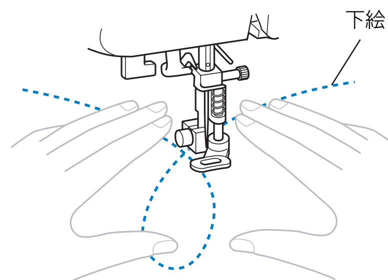


▶ 送り歯が下に下がります。

❺ 電源を入れ、模様を選択します。

❻ 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



❼ ぬい終わったらドロップレバーを背面から見て右側（ ）にし、プーリーを 1 回転させて送り歯をもとに戻します。

・通常は右側（ ）にしておきます。

3

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
3 重ぬい	10	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき、飾りぬい	0.0	0.0 − 7.0	2.5	1.5 − 4.0	×	止めぬい
かんどめ	16	A	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0 − 3.0	0.4	0.3 − 1.0	×	自動止めぬい

3 重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに用います。

1 ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

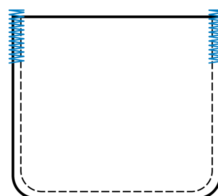
2 模様 10 を選択します。

3 ミシンをスタートさせます。

・「ミシンをスタートさせる」(→ P.34) を参照してください。

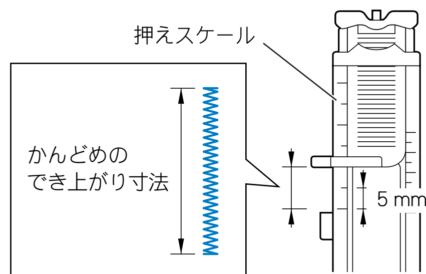
かんどめ

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに用います。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5 mm）を合わせて、長さを決めます。

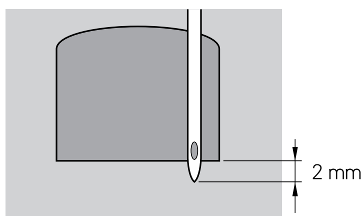


・ 最大約 28 mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え〈A〉を取り付けます。

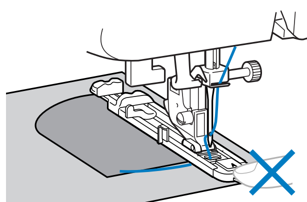
3 模様 16 を選択します。

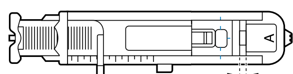
❹ ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2 mm 手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

・ 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

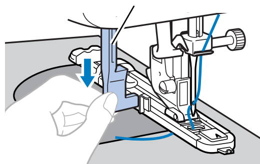




すきまをなくさない

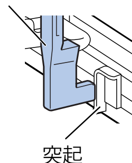
❺ ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

ボタン穴かがりレバー

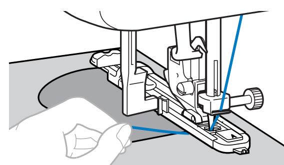


ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。

ボタン穴かがりレバー



❻ 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

❼ 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

❽ ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。



お知らせ

● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「模様を選ぶ」（→ P.33）を参照してください。

飾りぬいをする

飾りぬいができます。

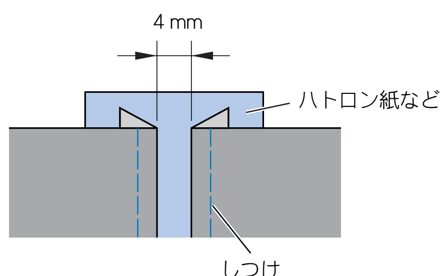
名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
ファゴティング	12	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	0.0 − 7.0	2.5	1.0 − 4.0	×	止めぬい

ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに用います。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

❶ 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

❷ ハトロン紙などの薄い紙に 4 mm の間隔をあけて、布地をしつけします。



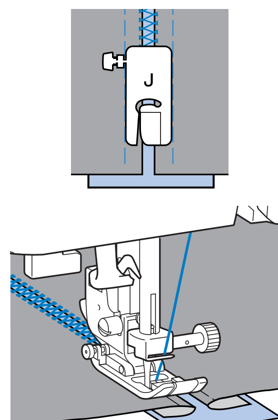
❸ ジグザグ押え〈J〉を取り付けます。

❹ 模様 12 を選択します

❺ ジグザグの振り幅を7 mmに設定します。

・「模様を選ぶ」(→ P.33) を参照してください。

❻ 押えの中心を布と布の中心に合わせてぬいます。



❼ ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

4 付録

模様設定一覧

模様の用途や振り幅・ぬい目の長さなどを一覧にしています。

実用模様

名称		模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
					自動	手動	自動	手動		
直線	左基線	00	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0 ー 7.0	2.5	0.2 ー 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
直線	中基線	01	J	ファスナーつけ、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	ー	ー	2.5	0.2 ー 5.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
伸縮ぬい		02	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0 ー 3.0	2.5	1.0 ー 4.0	×	止めぬい
ジグザグ		03	J	通常のほつれ止め、アップリケのぬいつけ	3.5	0.0 ー 7.0	1.4	0.0 ー 4.0	○（返しぬいはしないでください）	返しぬい
たち目かがり		04	G	普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5 ー 5.0	2.0	1.0 ー 4.0	×	止めぬい
たち目かがり		05	G	厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5 ー 5.0	2.5	1.0 ー 4.0	×	止めぬい
たち目かがり		06	J	伸びる布地のほつれ止め	5.0	0.0 ー 7.0	2.5	0.5 ー 4.0	×	止めぬい
まつりぬい		07	R	普通地のまつりぬい	0	3 ー -3	2.0	1.0 ー 3.5	×	止めぬい
まつりぬい		08	R	伸びる布地のまつりぬい						
3 点ジグザグ		09	J	厚地・伸びる布地のほつれ止め、ゴムひもつけ	5.0	1.5 ー 7.0	1.0	0.2 ー 4.0	×	止めぬい
3 重ぬい		10	J	そで股下ぬい、ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき、飾りぬい	0.0	0.0 ー 7.0	2.5	1.5 ー 4.0	×	止めぬい
アップリケ		11	J	アップリケ布のぬいつけ	3.5	2.5 ー 5.0	2.5	1.6 ー 4.0	×	止めぬい

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		ウォーキングフット	返しぬいスイッチ
				自動	手動	自動	手動		
ファゴティング	12	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	0.0 — 7.0	2.5	1.0 — 4.0	×	止めぬい
手ぬい風直線（キルト用）	13 Q	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0 — 7.0	2.5	1.0 — 4.0	×	止めぬい
アップリケ（キルト用）	14 Q	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5 — 5.0	1.2	1.0 — 4.0	×	止めぬい
	15 Q	J	アップリケ、バインディング						
かんどめ	16	A	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0 — 3.0	0.4	0.3 — 1.0	×	自動止めぬい
ボタン穴かがり	17	A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0 — 5.0	0.4	0.2 — 1.0	×	自動止めぬい
	18	A	薄地・普通時のねむり穴、横穴						
	19	A	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0 — 7.0	0.5	0.3 — 1.0	×	自動止めぬい

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤をうすめて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

注 意



- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

かまの掃除

針板の下にあるかまを掃除します。
かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

❶ **電源を切り、本体右側面の電源ジャックから電源コードを抜きます。**

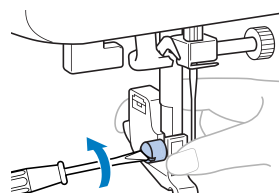
注 意



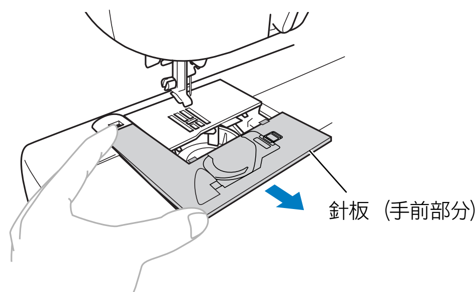
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

❷ **針と押えを上げます。**

❸ **押えホルダーのネジをゆるめて押えホルダーを外し、針の止めネジをゆるめて針を抜きます。**

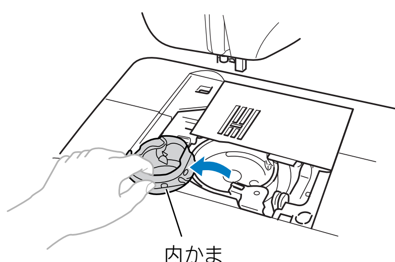


❹ **手前の針板の奥側に指を引っかけ、手前にスライドさせて外します。**

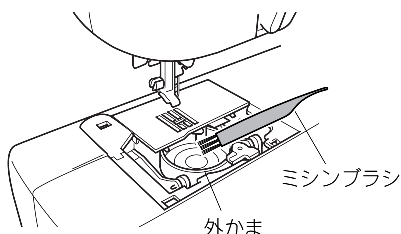


4

❺ 内かまを取り出します。

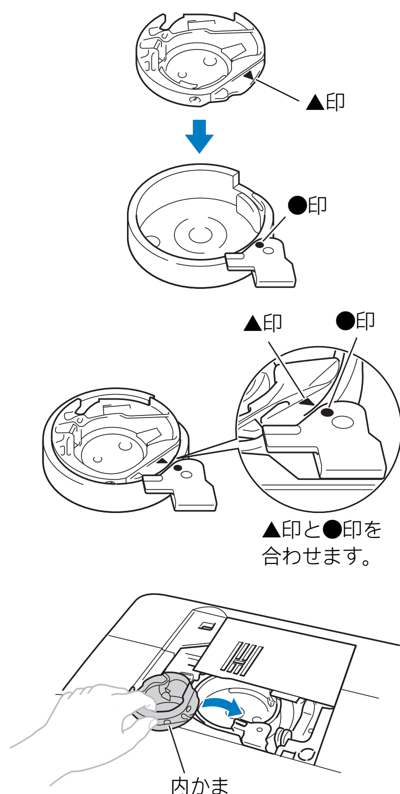


❻ 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



・ 外かまや内かまに油をささないでください。

❼ 下図のように▲印と●印が合うように、内かまを取り付けます。



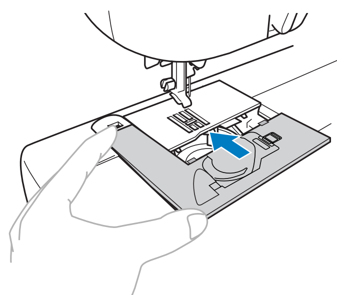
・ 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

注意




- キズが付いた内かまは使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。
  内かまは最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

❽ 手前の針板のツメの部分を本体に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。

こんなとき	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	P.15
	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.15
	下糸巻き軸が右側に押されている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	P.17
	フットコントローラーが差し込まれた状態で、スタート／ストップスイッチを押している。	フットコントローラーが差し込まれているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。スタート／ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.15
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりしめます。	P.28
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.53
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.35
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	–
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	–
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	–
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16

こんなとき	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸が正しくセットされていない。(糸こまが正しくセットされていない、針棒糸かけから糸が外れている、など。)	上糸を正しくセットします。	P.20
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	–
	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.26
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.35
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.55
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針板の穴の周囲にキズがある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」(フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	–
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」(フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	–
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」(フリーダイヤル 0120-340-233) にご相談ください。	–
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16
下糸がからまる **下糸が切れる**	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.18
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	P.16
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	–
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、かまを掃除します。	P.55
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16
糸調子が合わない	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.20
	下糸のセットがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.18
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	P.16
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P.30
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16

こんなとき	原因	対処	参照ページ
布地にしわがよる	上糸または下糸のセットがまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.18、20
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.20
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	薄地の場合に、ぬい目がつれたり、布がうまく送れない。	布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P.37
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35
ぬい目がとぶ	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.20
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.27
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.27
	針板の下やかまにほこりなどがたまっている。	手前の針板を外してかまを掃除します。	P.55
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯やかまにほこりがたまっている。	かまを掃除します。	P.55
	上糸のセットがまちがっている。	上糸を正しくセットします。	P.20
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	―
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違う従来品では正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	P.16
針穴に糸が通らない	針が上に上がっていない。	針上下スイッチを1回または2回押し、針を上げます。	P.20
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.27
模様がきれいにぬえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.53
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.35
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.55
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを に動かします。	P.49
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P.33
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.26
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	P.55
手もとランプが点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にご相談ください。	―

エラーメッセージ

誤った操作をした場合、またはミシンに異常がある場合は、操作パネルにエラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージが表示されている間に、+/−（模様選択キー）を押す、または正しい操作を行うとメッセージが消えます。

エラーメッセージ	原因	対処方法
E1	押えが上がっているときに、スタート／ストップスイッチ（フットコントローラーが差し込まれているときは、フットコントローラーを踏み込んだ）、または返しぬいスイッチを押した。	押えを下げてから操作してください。
E2	ボタン穴かがりレバーが下がっているときに、ボタン穴かがり、またはかんどめ以外の模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した（フットコントローラーが差し込まれているときは、フットコントローラーを踏み込んだ）。	ボタン穴かがりレバーを上げてから操作してください。
E3	ボタン穴かがりレバーが上がっているときに、ボタン穴かがり、またはかんどめの模様を選択してスタート／ストップスイッチを押した（フットコントローラーが差し込まれているときは、フットコントローラーを踏み込んだ）。	ボタン穴かがりレバーを下げてから操作してください。
E4	下糸巻き軸を右に移動させているときに、返しぬいスイッチ、または針上下スイッチを押した。	下糸巻軸を左に移動させてから操作してください。
E5	フットコントローラーが差し込まれているときに、スタート／ストップスイッチを押した。	フットコントローラーをはずして、スタート／ストップスイッチで操作してください。もしくはフットコントローラーをつけたまま足で操作してください。
E6	モーターがロックした。	曲がった針を交換するか、からまった糸を取り除いてから操作してください。


お知らせ

● 操作パネルに“F01”～“F08”が表示された場合、ミシンが故障していることが考えられますのでお買い上げの販売店にお問い合わせください。

電子音

キーを操作しているときや、まちがった操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ まちがった操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。
必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）、お客様相談室にお問い合わせください。

■ **保証書について**

ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。（保証書は外箱に付いています。）
また無料修理保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン 119 番」、お客様相談室にお問い合わせください。

■ **ミシン 119 番**

ミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けは「ミシン 119 番」（フリーダイヤル 0120-340-233）までお問い合わせください。

■ **お客様相談室**

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

〒 467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町 15-1
お客様相談室（ミシン 119 番）：TEL ：0120-340-233
Fax ：052-824-3031
受付時間：月曜日～金曜日　9：00 ～ 17：30
休 業 日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

4

 **お願い**

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン 119 番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

索引

アフターサービス

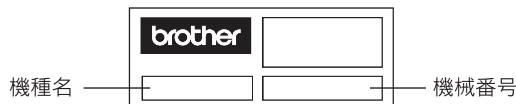
- ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。詳しくは保証書をご覧ください。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。
  性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室へお問い合わせください。

お客様相談室（ミシン119番）0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1
お客様相談室（ミシン119番）：TEL :0120-340-233
Fax :052-824-3031
受付時間：月曜日～金曜日　9：00 ～17：30
休 業 日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン119番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

- ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
  http://www.brother.co.jp/
- ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。
  http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

ブラザー工業株式会社

取扱店

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

114-S42/S43
XE3422-201②
Printed in China